

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 岐阜県立各務原高等学校（※正式名称を記載）

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 504-8585

岐阜県各務原市蘇原新生町 2-63

E-mail c27353@gifu-net.ed.jp

Website http://school.gifu-net.ed.jp/kaku-hs/

幼児児童生徒数 男子 458 名 女子 469 名 合計 927 名

幼児・児童・生徒の年齢 15 歳～18 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800 字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校は、普通科、理数科、英語科を併設する公立、男女共学の高等学校である。「開拓者精神（創造・挑戦・協同）を校訓とし、高い知性、豊かな情操、健康な心身とたくましく生きる力を持った人間を育成することを目標としている。

E S D を確かな学力をはぐくむ機会と捉え、E S D の実践を通して社会への興味関心やコミュニケーションの力の育成を目標とした。

具体的には、国際交流や地域交流のためのコミュニケーション能力の育成、世界や社会の問題に対する関心と知識の育成を柱に、①国際交流に係わる活動、②地域交流に係わる活動、③教育と貧困に係わる学習を行った。

① 国際交流に係わる活動

◇ケンモア高校との姉妹校交流：

オーストラリア、ブリスベンにある姉妹校、ケンモア高校との交流事業は、今年で 31 回目となった。1 年おきに、15 名ほどの生徒たちが 1 週間、ホームステイし、お互いの高校で授業を受ける。今年度は訪問を受けた。

◇セリトス市高校生の短期滞在受入：

各務原市の姉妹都市である、米国のセリトス市から、毎年短期滞在する高校生を受け入れている。ホームステイ先のバディと共に3日間、本校で授業を受けている。

◇アメリカ・カリフォルニア州、ホイットニー高校との交流：

昨年度姉妹校提携を結び、1年おきに、10名ほどの生徒たちが1週間、ホームステイし、お互いの高校で授業を受ける。今年度は 名の本郷生徒が訪問した。

◇県内の岐阜大学とは理数科の課題研究のアドバイザーとして連携し、岐阜聖徳学園大学とは英語科の訪問授業、朝日大学とは歯学部留学生との交流事業で連携している。

② 地域交流に係わる活動

◇各務原市内寺子屋事業：

年に3回、本郷生徒が各務原市の「寺子屋事業」に参加し、市内の小学に英語や数学を教える活動を行った。

◇リスペクトクラブ：

サッカー部は 週1回、学校付近のフットサル場にて地域の小学生と、ラグビー部も、週1回、本校のグラウンドにて、地域の小学生と、ともにスポーツを行う交流を続けている。

③ 教育と貧困に係わる学習

◇「世界一大きな授業」：

1年生普通科（6クラス）が、総合的な学習の時間2時間を使って、「世界一大きな授業」に参加した。1時間目はクイズ、識字率について・教育と資金、2時間目は話し合い「本当に必要な教育援助とは？」と、首相、外務大臣に手紙を書こう、を実施した。



①の写真 ケンモア高校生来校
化学の授業で一緒に豆腐づくり



①の写真 ホイットニー高校での授業風景



②の写真 寺子屋授業風景



②の写真 寺子屋授業を終えて

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他 (地域連携)		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他 (自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他 (自由記述 休日)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

特になし

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

・ユネスコスクール初年度ということもあり、今年度よりの活動としては、総合学習の中に「世界一大きな授業」を組み入れることしかできなかった。「世界一大きな授業」は来年度も継続し、事前指導を1時間増やすなど、改善することになっている。
・従来からの活動に関しては、毎年、前年度までの反省を生かして改善に努めることができている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

・担当者は1人で、その都度、学年会や分掌、教科、部活動などとの協力により活動してきたことが実情であった。学校自体が普通科単独校として学科改変が行われ、校内組織についても検討されている時期であり、ユネスコスクールに取り組むための組織も検討中である。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

・評価としては、指針や方法などは定まっておらず、内部での活動ごとのみであった。
・学校全体での活動とその評価がない点が今後の課題である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

・従来までの活動が、ESDとどれだけ関連づいているかを確認する年であった。どの活動も、表立っての関連を目標に組み込んだり、十分に発信できてはならず、今後の課題となっている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

・県内の岐阜大学とは理数科の課題研究のアドバイザーとして、岐阜聖徳学園大学とは英語科の訪問授業、朝日大学とは歯学部留学生との交流事業で連携している。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

・まだ行なえていない。来年度以降、まずは県内高校との交流を考えていきたい。
・日本ユネスコ協会岐阜支部とも、連携できる体制を模索したい。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき(特に強調した

い) 内容 (例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化) (200字程度)
※チェック事項 2-5 に対応

・国際交流や地域交流に参加した生徒たちは、練習や実施によってプレゼンテーション能力を高め、さらなるコミュニケーション能力の向上に向けて意欲的になっている。特に国際交流事業については事業後に全校生徒に成果を発表し、参加していない生徒たちにもよい刺激となっている。

(3) 平成 30 年度の活動計画 (200~400字程度)

・「世界一大きな授業」参加 (1年生総合学習)。
・ケンモア高校訪問、ホイトニー高校、セリトス市高校生受け入れ。
・地域交流の継続。
・普通科単独校への学科改変に伴う、今後の地域交流、大学連携の方針検討。
・県内ユネスコスクール、日本ユネスコ協会岐阜支部との連携模索。